先ず真光寺川ウオークから始めましょう！

真光寺川を清流にする会　世話人 山口拓郎

鶴三小の荒井校長先生の言葉は衝撃的でした。「これからは学校を開かれた地域のセンターにしていきたいのです。子ども達自らが自分達の住む地域を知り、地域に親しみ、自然のすばらしさを知ることを目指してほしいのです。そんな子ども達を地域の方々に支え育ててもらうことを希望します。そのきっかけとして先ず真光寺川ウオークから始めたいと思います」３月上旬地域の町内会、老人会、ＰＴＡ、そして清流にする会が学校に集められた席上、校長先生からこう切り出されました。とかく安全を懸念する余り校門を閉ざし内向きなりがちな風潮に対して何と力強い言葉だったことでしょう。それから地域の人々が一っになつてその準備を進める活動が始まりました。

２月

２月８日（日）定例活動日

厳冬の季節、清掃作業は無理なので皆で鶴見川・小野路川を探索することになった。快晴微風、ウォークには絶好の日和だった。９時半、鶴川駅集合。参加者２０名
鶴見川沿いに歩く。翡翠発見、歓声がわく。小野路川は整備の遅れが幸いして自然が残されている。地域と行政が協力してモデル地区として都市化の中での新しい河川の在り方を模索している。成果を期待したい。昼食後、鶴見川上流の大蛇行を探索する。この辺り「原鶴見川」と云えようか。流れは断崖に沿い青い淵をつくり自然のままに蛇行する。３時解散。

２月２０日（金）真光寺中でトーク

１年担当の小田倉先生からお電話を頂く。午後の教課、体育館に８５名が集合している。冒頭、生徒代表の挨拶があり開始。手応えがあつた。質問が次々出される。とうとう時間切れになってしまつた。２週間後どさっと生徒の感想文の束が届けられた。よくまとまつており感心した。

３月

３月２日（火）鶴三小・地域懇談会

学校のお声掛かりで鶴川一、二、五、六丁目の町内会、老人会、ＰＴＡ、狐窪緑地愛護会、それに清流会が集まる。冒頭、荒井校長から「鶴三小を地域の開かれたセンターにしたいので協力してほしい」と云うお話しがある。そのきっかけとして真光寺川ウォークから始めたいとのこと。全校３２０名の児童が一日心ゆくまで真光寺川を体験する、何と素晴らしいことか！一も二もなく大賛成、全面的協力を約す。ただ、初めての経験だ。折角の機会だから先ずは安全に、そして全児童が何かを掴んで帰つてほしい。準備には万全を期そう。横山先生が総括責任者となる。

３月１４日（日）定期清掃日

９時半、開戸親水に集合。水は少し冷たいが頬をなでる風は快い。２ヶ月川に入ることができなかった。流石にゴミの量が多い。自転車も２台引き揚げる。
いちょう会館で反省会。ＥＭ機構から[illegible]田さんがきて下さる。沖縄出身、琉球大[illegible]Ｍ教授の愛弟子だったとのこと。利発な女性だ。説明は明快。活発な討議の末、本格的にＥＭ菌を使って真光寺川の水浄化に取り組むことになつた。

３月１８日（木）細菌検査サンプル採集

前日の真夏日から一転肌寒い天候。４ヶ所で採集、松前さんにお渡しする。

３月２４日（水）鶴三小卒業式

昨年に引き続きご招待に預かる。快晴、父兄が続々つめかける。２クラス、６２名の卒業生。校長先生から一人一人卒業証書を渡される。その前にマイクに向かって元気よく抱負を宣誓。新しい門出、本人も父兄も感激一入であろう。谷川峻太郎作詞山本直純作曲の校歌もいい。幸多かれと願わずにはおられなかった。

４月

４月１日（木）横山先生来宅

卒業式後暫く郷里に帰ってきたとのこ「６年生を担当すると子ども達との別れが辛く心の切替が大変なんですよね」とおっしゃる。心優しい先生である。真光寺川ウォークについて話し合う。子ども達に対する理解が少しずつ深まる。イメージが合ってくる。

４月４日（日）鶴三小・地域懇談会

荒井校長先生ご栄転とのこと、驚く。新たに大原校長先生が赴任、ご挨拶。「前校長の方針を継承してまいりますのでよろしく協力頂きたい」とのこと。横山先生からかなり具体的に説明がある。真光寺川のことでもあり、やはり我々が中心にならざるをえないようだ。
「会員の方々に一肌脱いでもらわなくては・・・」そんな思いで校門を後にした。

４月１１日（日）定期清掃日

快晴、絶好の清掃日和。９時半開戸親水に集合。大山さん、１５日サウジアラビアへの出発を控えておられる。２年間は我々も戦力ダウンだ。水も温み作業は快適に進む。反省会は市民大学の環境体験講座、鶴三小真光寺川ウォーク、水と緑研究会の全国一斉水質検査等打ち合わせることが多い。仲村さんがＥＭ菌培養液を作り持参して下さる。それぞれペットボトルに培養液を分けてもらう。米のとぎ汁で培養し定期的に五条池、広袴親水公園、せせらぎの小径の３ヶ所に投入することになつた。果たして成果はどうであろうか？

４月１５日（木）細菌検査サンプル採集

夏を思わす暑い一日。朝早く家を出る。ケ[illegible]橋河畔の富士テクノス（株）東京工場[illegible]されたらしい。これまで時々どす黒い廃液を排出していた。閉鎖の事情は分からないが先ずはホッとする。

４月２５日（日）ＥＭ培養液投入

それぞれ培養液をいれた容器を持って五条池に集まる。ＥＭ機構の塩谷さんも見えて酸性度をチェック、培養はうまくいったらしい。五条池の水の容積と投入の適量が計算される。余りは広袴親水公園へ。

４月２７日（火）横山先生来宅

チェクポイント６ヶ所の内４ヶ所に３名ずつ清流の会会員をはり付けることになる。やはり現場を下見して確認しあうことが大切だという結論に達する。

５月

５月５日（水）中村さん来宅

鶴三小・真光寺川ウォークの当日子ども達に作ってもらうエコ・タワシのサンプルと資料を届けて下さる。二田さん、山岡さん[illegible]人で予行演習をする段取りになっているそうだ。

５月８日（土）地域懇談会と下見

１０時から鶴三小で最終的な詰めが行われる。ほぼ体制が出来上がったようだ。後は当日の晴天を願うばかりである。１４時下堰に集合する。翌日の市民大学・参加体験講座と鶴三小・真光寺川ウォークとを兼ねた下見を行う。先生４名、地域の方６名、清流の会８名。チェクポイント：下堰ー能ヶ谷いこい会館ー開戸親水ー平成橋周辺ー広袴親水公園ーせせらぎの小径の６ヶ所で子ども達への対応を丹念に検討しながら進む。真光寺川ウォークの下見はせせらぎの小径起点で終わる。清流の会員は翌日の体験講座に備えて元真光寺駐在所跡から観泉寺を経て源流の一つ窪平の仲村さんグループの有機農法菜園まで進む。気持のいいコースである。唯一懸念されるのは翌日の空模様だった。

５月９日（日）体験参加講座

予報は「日中は高曇り・夕方から雨」
夜明け、大粒の雨が降った。しかしやがて高曇りに変わる。９時開戸親水へ急ぐ。１０時、受講生２１名、市民大学の砂田課長、原田、守屋さん、清流会員１５名集合。挨拶、水質観測から始める。そして清掃作業に取りかかる。予報に反して雨が降り出す。雨の中の清掃作業となる。１１時半から能ヶ谷いこい会館において和光鶴小の大川先生に「真光寺川と子ども達」の講話をお願いする。好評だった。昼食休憩後、有志で真光寺川ウォークへスタートする。受講生の大半が参加する。平成橋で谷戸の風景を眺め広袴親水公園に着いた頃、雨は本降りになってきた。池の中の杭に二羽の五位鷺が雨に濡れまじろぎもしない。此処で一旦解散となる。しかし折角だから最後まで歩きたいと希望される受講生が多いのには驚いた。予定のコースを進み目的地窪平へ到着する。１８名もいた。菜園で仲村さんの説明を熱心に聞き入る。次々質問が続く。いつか雨も小止みになっていた。仲村さん心づくしの筍が配られる。１６時、晴れ晴れとした気分で解散となる。